

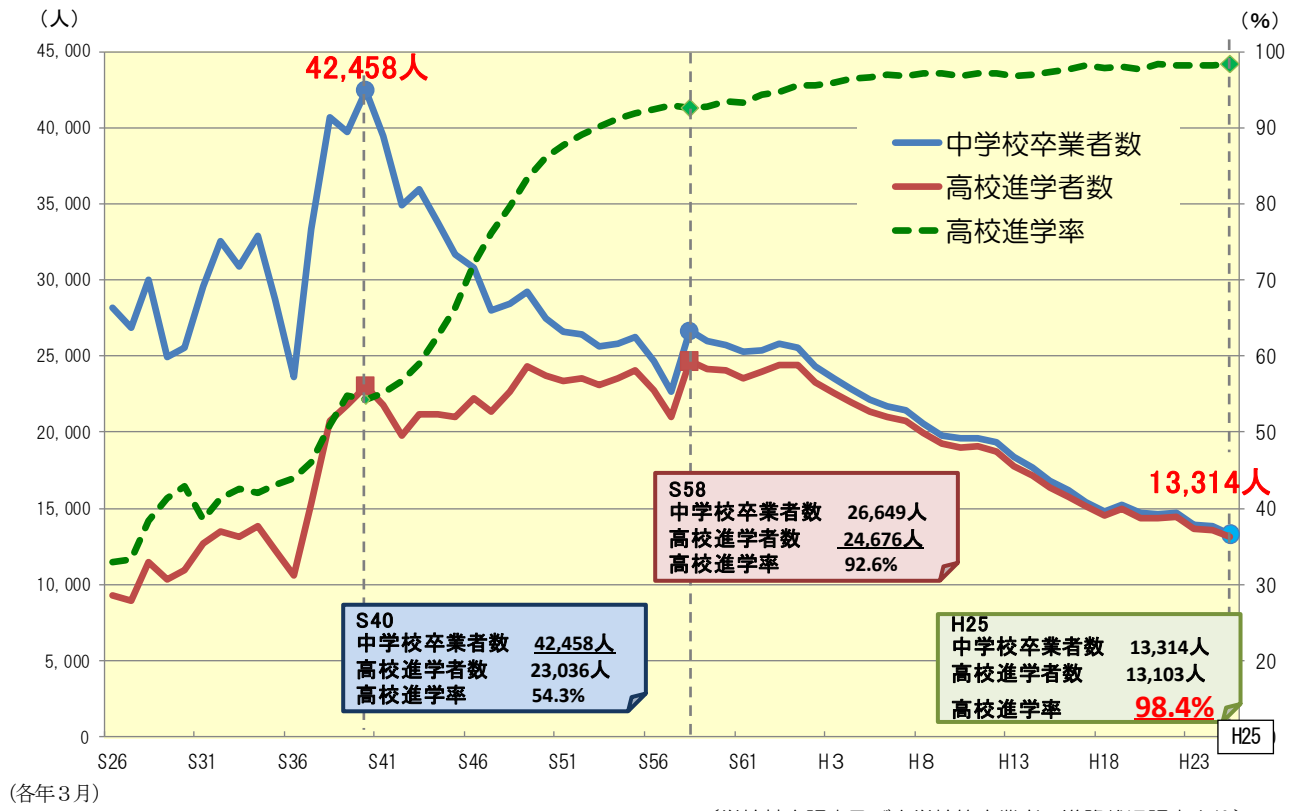
高等学校教育改革の取組状況等

1	高校教育改革の背景	1
2	これまでの高校教育改革の取組	2
3	青森県立高等学校将来構想検討会議の設置等	5

1 高校教育改革の背景

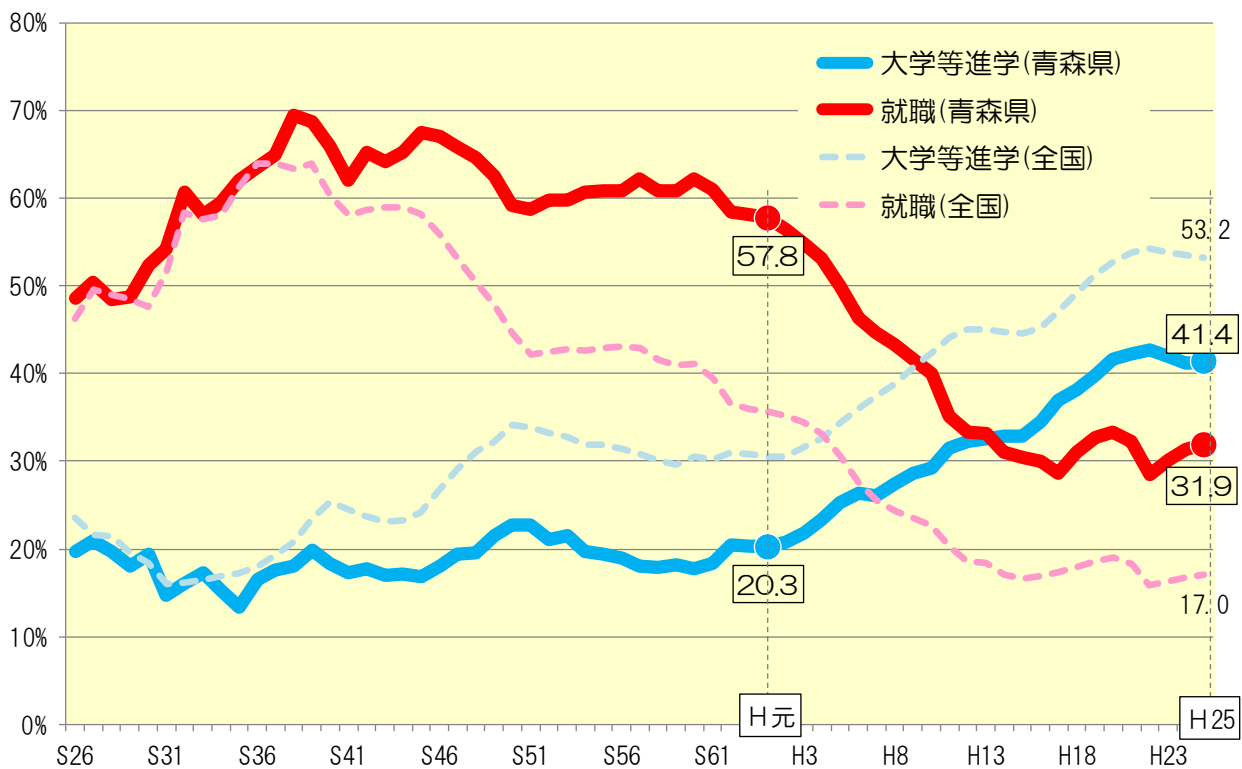
- ・ 中学校卒業生数の減少と高校進学率の上昇
- ・ 就職者と進学者の割合が逆転

(1) 青森県の中学校卒業生数と高校進学率の推移



(学校基本調査及び中学校等卒業生の進路状況調査より)

(2) 高校卒業生の進路状況



(学校基本調査及び高等学校等卒業生の進路状況調査より)

2 これまでの高校教育改革の取組

- ・多様化への対応
- ・中学校卒業生数の減少に対応した高校の適正規模・配置

平成9～10年度 青森県高等学校教育改革推進検討会議

平成11年2月「21世紀を展望した本県高等学校教育の在り方について」
《多様化への対応、中高一貫教育の導入等 報告》

第1次実施計画(平成12～16年度)

第2次実施計画(平成17～20年度)

平成18～19年度 高等学校グランドデザイン会議

平成19年10月「今後の県立高等学校の在り方について」
《統合を含めた学校配置の見直しの必要性等 答申》

第3次実施計画【前期】(平成21～25年度)

第3次実施計画【後期】(平成26～29年度)



《第3次実施計画策定の4つの視点》

- 1) 教育内容・方法の充実・改善
- 2) 適正な学校規模・配置
- 3) 学科・コース等の再編整備
- 4) 学校種間の連携や地域の様々な教育資源の活用

《多様な学科の設置》

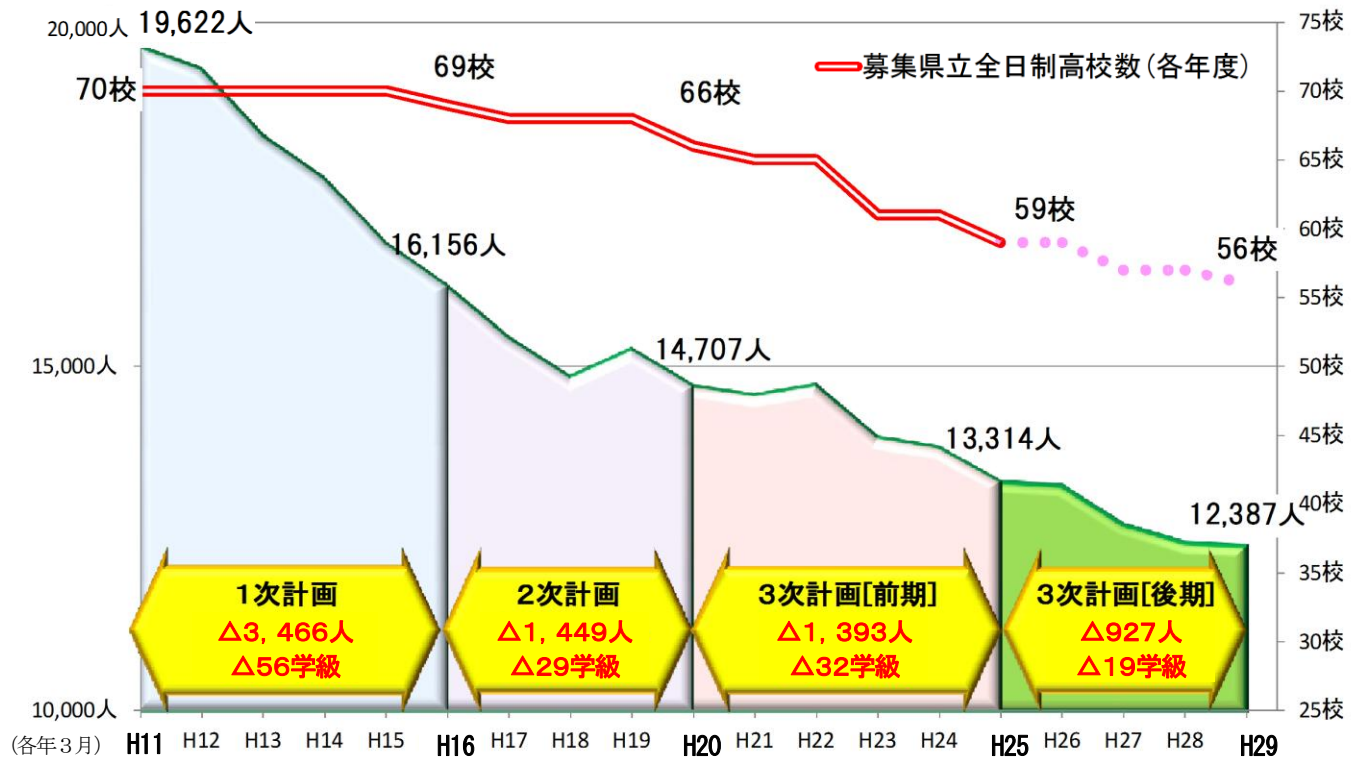
	普通科系の 専門学科	職業教育を主とする 専門学科	総合学科
H12	スポーツ科学科（青森北高校）	動物科学科（三本木農業高校）	
H13	スポーツ科学科（弘前実業高校、 八戸西高校）		
H14			大湊高校
H15	美術科（青森戸山高校～H24） 表現科（八戸東高校）		青森中央高校 木造高校
H17			木造高校深浦校舎
H18		生物生産科（五所川原農林高校、名久井農業高校） 園芸科学科（名久井農業高校） 植物科学科（三本木農業高校）	
H20		生物生産科（柏木農業高校） 環境工学科（柏木農業高校）	
H22		森林科学科（五所川原農林高校） 環境土木科（五所川原農林高校、三本木農業高校） 食品科学科（五所川原農林高校）	
H23		都市環境科（青森工業高校） 機械・エネルギー科（十和田工業高校） 設備・エネルギー科（むつ工業高校）	
H25		環境システム科（名久井農業高校） 土木建築科（八戸工業高校）	

《多様な制度の導入》

	全日制 普通科 単位制	総合 選択制	中高一貫 教育	定時制 三部制	通信制の再編	くくり募集
H13			連携型 （田子高校）			
H14		弘前実業高校	連携型 （大湊高校 ～H25）			
H16	青森東高校					
H18	八戸北高校			北斗高校 八戸中央高校		
H19			併設型 （三本木高校）			
H20	弘前南高校					
H22						商業科と情報処理科 （青森商業高校、黒石商 業高校、三沢商業高校）
H25				尾上総合高校	北斗高校の分室か ら本校に再編 （八戸中央高校、 尾上総合高校）	
H26						普通科と理数科 （五所川原高校）

中学校卒業生数の減少に対応した高校の適正規模・配置

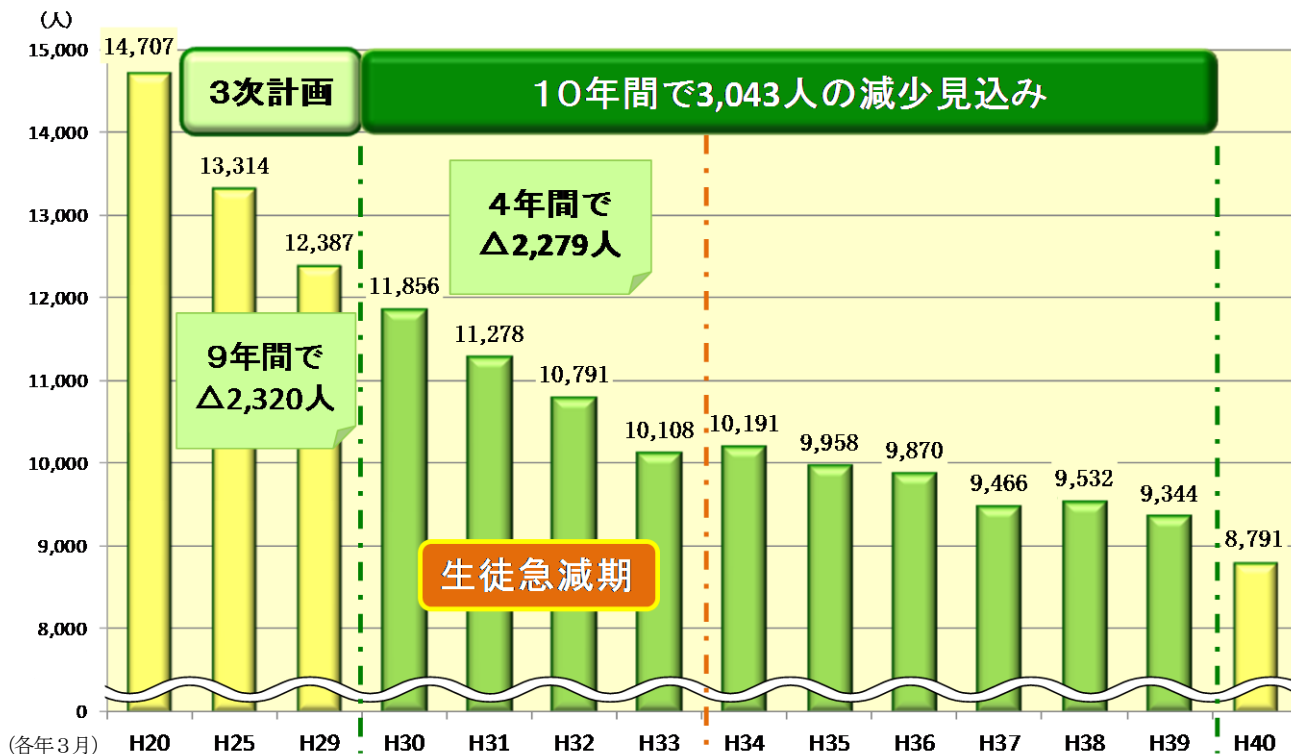
《高等学校教育改革実施計画期間中の中学校卒業生数及び学級数減の推移》



	1次計画	2次計画	3次計画[前期]	3次計画[後期]
生徒数減少への対応	<ul style="list-style-type: none"> 既存の学校は可能な限り存続 市部の大規模校を中心に学級減 小規模校の学級定員の引き下げ(1学級40人→35人へ) 	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい学級規模を1学年4～8学級とする 既存の分校の募集停止 市部の1学年3学級以下の学校の募集停止 町村部の1学年3学級以下の学校は地元生徒の志願・入学状況を踏まえ学級減 1学級募集とする学校は校舎制を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい学級規模を、3市の普通高校は1学年6学級以上、その他の高校は、1学年4学級以上とする 一定規模以上の学校であることが望ましいというこれまでの方向性を踏襲し、地域の様々な実情等を考慮した上で、統合を含めた適正な学校規模配置を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 3次計画[前期]と同様の基本的な考え方に基づき対応
影響留意点等	<ul style="list-style-type: none"> ◆市部の学校 ・志願倍率が高いまま推移 ◆町村部の学校 ・ほぼ定員を満たしているものの、地元の生徒の占める割合が低下している小規模校 ・大幅な定員割れが生じている小規模校 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次実施計画と同様に市部の学校の学級減を中心に対応した場合、生徒や保護者の進路希望とまますかけ離れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい学校規模になるよう6地区毎に中学校卒業予定者数の推移等に対応した普通科・職業学科、総合学科の割合という観点から計画的に募集停止とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の県立高校に通学することが困難な地域を抱える高校があること等を考慮し、柔軟な学校配置とする
募集停止校(全日制)	木造高校車力分校	野辺地高校横浜分校 木造高校稲垣分校 五所川原高校東校舎	七戸高校八甲田校舎 青森戸山高校 八戸南高校 尾上総合高校 弘前南高校大鱈校舎 南部工業高校 田名部高校大畑校舎	岩木高校 八戸北高校南郷校舎 弘前実業高校藤崎校舎 (以上予定)
学校数(全日制) (分校・校舎も1校とする)	70校→69校	69校→66校	66校→59校	59校→56校(予定)

3 青森県立高等学校将来構想検討会議の設置等

本県の中学校卒業（見込）者数の推移



《地区毎の中学校卒業（見込）者数等の推移》

(単位:人)

	第2次	第3次実施計画		次期計画(予定)					【後期】 [H35~H39] (H29に対する H39の割合%)
	実施計画 [H17~]	【前期】 [H21~]	【後期】 [H26~]	【前期】					
		H20	H25	H29	H30	H31	H32	H33	
東青地区	3,262	2,958	2,958	2,836	2,623	2,601	2,396	2,477	2,209 (74.7%)
西北地区	1,621	1,509	1,350	1,283	1,068	1,168	1,040	992	845 (62.6%)
中南地区	3,122	2,850	2,543	2,355	2,394	2,217	2,089	2,118	1,918 (75.4%)
上北地区	2,287	2,119	1,969	1,901	1,807	1,723	1,647	1,577	1,510 (76.7%)
下北地区	896	782	700	698	658	584	574	587	524 (74.9%)
三八地区	3,519	3,096	2,867	2,783	2,728	2,498	2,362	2,440	2,338 (81.5%)
県計	14,707	13,314	12,387	11,856	11,278	10,791	10,108	10,191	9,344 (75.4%)
参考 (前年比較)	—	—	—	△531	△578	△487	△683	83	—
参考 (期間内増減)	△1,449	△1,393	△927	△2,196				△847	
		△2,320人		△3,043人					
募集学級数 (単位:学級)	280	248	229						
増減	△29	△32	△19	△51学級					

(県教育庁高等学校教育改革推進室推計)

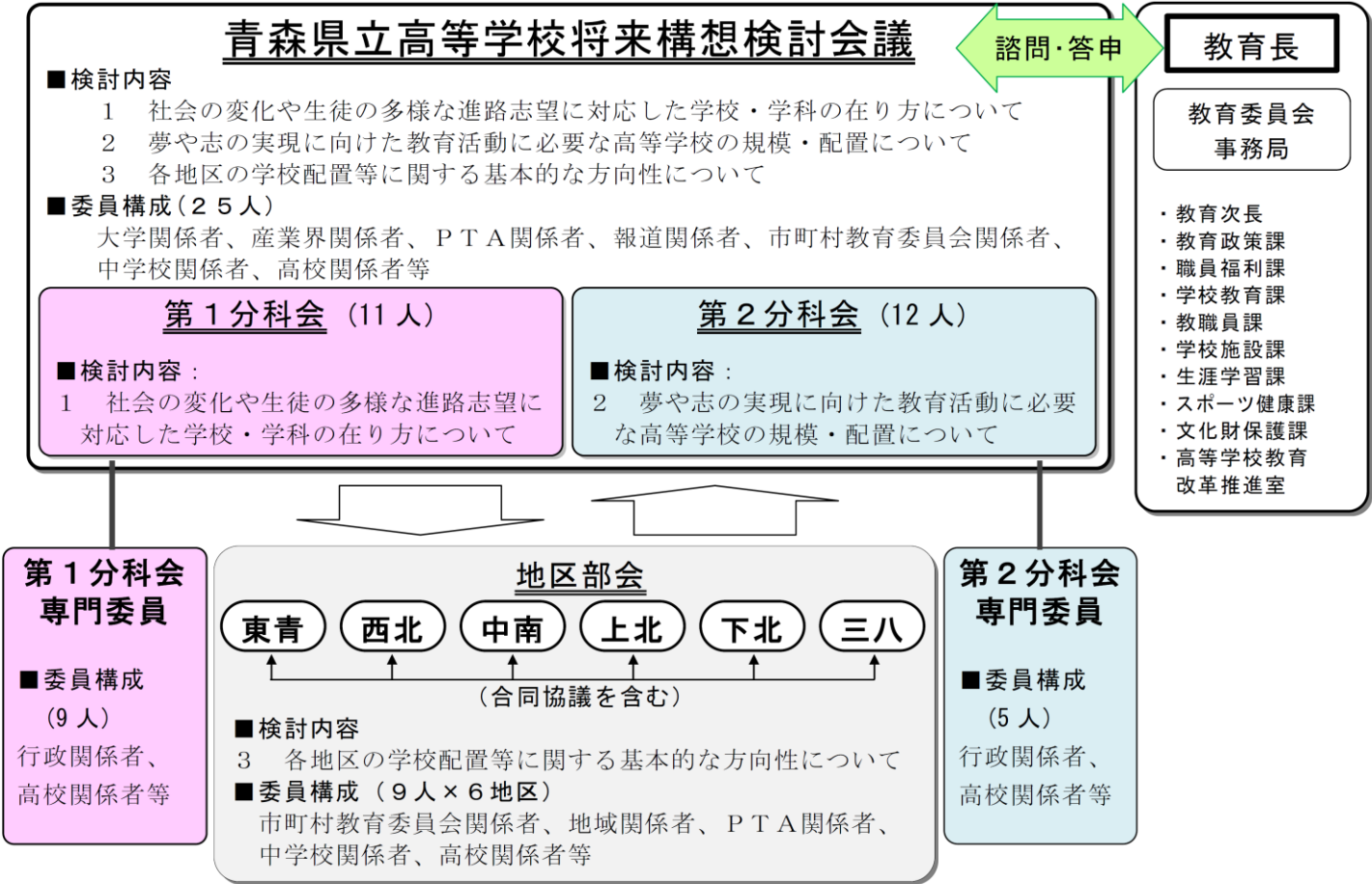
青森県立高等学校将来構想検討会議の設置

社会の変化や生徒の急激な減少に対応し、夢や志の実現に向けた知・徳・体を育むための県立高等学校の在り方について、中・長期的な展望に立った検討が必要



- 《諮問事項》
- 1 社会の変化や生徒の多様な進路志望に対応した学校・学科の在り方について
 - 2 夢や志の実現に向けた教育活動に必要な高等学校の規模・配置について
 - 3 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性について

青森県立高等学校将来構想検討会議組織図



「これからの高等学校教育に求めること」に係る検討状況〔検討会議（H26.8.1）まで〕

□ は、全体意見交換における委員からの発言等

これからの本県高等学校教育に求めること

目的

青森の未来を担う子どもたちをどのように育成していくのか

課題

グローバル化 多様化 少子化 等への対応

「オール青森」の視点

選択と集中

青森県が重視する視点

高校の「形」を考え直す！

<他県にない独自の尺度>
課題をチャンスに！

これまでの取組の検証

「繋がる」視点

どの高校でも共通して取り組むべきもの

各学校の特色を生かして取り組むべきもの

情報収集・活用・発信能力 社会に対する順応性 学び続ける力 自発性

地域を支えることができる人財の育成

地域経済に貢献できる
有為な人財の育成

社会をリードする
エリート人財の育成

愛郷心

責任感

協調性

礼儀作法

地域と一体
になった活動

世界に立ち向かって
いく人財の育成

困難に負けない精神力

体力

強靱な心身

キャリア教育

たくさんの経験・体験

民間団体、企業、地域との連携・協力

大学と連携したレベルアップの仕組みづくり

グローバル教育

愛郷心・郷土愛

地元を愛し、地元で貢献できる人材の育成

外に出てみなければ中の良さはわからない

高校教育の質の確保

教員の資質向上

教員数の確保

市町村、事業所、保護者、地域住民からの学校支援

志ある教育者、子どもたちが尊敬できる教育者の育成

ICTの活用

高校の規模・配置に関して留意すべき視点

県内どこに住んでいても高校教育を受けられる環境

教育効果を上げるには一定の規模による学校の活性化が必要

生徒や保護者の負担を考慮する必要

バランスを
どう取るか

250人位の生徒がいれば部活動を選ぶことができ活性化

地域に学校を残してその地域の伝統を継承していくことも必要

多くの選択肢から子どもたちが自ら選択できることが大切

《将来構想検討会議委員からの発言をまとめたもの》

これからの本県高等学校教育に求めること

青森県が重視する視点

オール青森で支える子どもたちの育成 ・ これまでの取組の検証

共通性：青森県の高校生が共通して身に付ける力（生きる力）

多様性：各学校の特色を生かし集中して育成する人財

確かな学力：情報収集・活用・発信能力、学び続ける力等

- 基礎的・基本的な知識・技術
- 基礎的・基本的な知識・技術を活用して課題を解決する力
- 主体的に学習に取り組む意欲・態度

各学校における教育活動を通して、
市民性を身に付け地域の担い手として**地域社会**を支える人財を育成

上級学校へ進学してより**専門的な知識**や**技術**を身に付け、**地域社会**や**産業の発展**に貢献する人財を育成

選抜性の強い大学への進学に対応した教育課程を設定し、**社会**を牽引する人財を育成

豊かな心：愛郷心、責任感、協調性等

- 社会の発展に寄与する態度を養うために必要な「公共心」や「倫理観」
- 社会奉仕の精神、他者への思いやり

健やかな体：困難に負けない精神力、体力等

- 健康の保持増進のための実践力

- ◇「生きる」「働く」「学ぶ」をつなぐ**キャリア教育** → 生きる力の育成
- ◇「郷土理解」に基づく**グローバル教育** → 「青森を知って世界に貢献する人財」「世界を知って青森に貢献する人財」の育成
- ◇「教員の資質向上」「教員数確保」「市町村、保護者等からの学校支援」「インクルーシブ教育・学び直し」「ICTの活用」
→ **高校教育の質の確保**

本県高等学校教育に求めることを実現するために、学校はどうあればいいのか？